

---

こうかん

米内山陽子

---

登場人物

三枝加容子（みえだかよこ）

三枝広喜（みえだひろき）

沢島峠（さわじまとうげ）

沢島杏南（さわじまあんな）

ラブホテルの一室。

広いベッドの端と端に座っている加容子と広喜。

二人の荷物はソファに置いてある。

加容子 えーとね、「先輩、良くこういうところ来るんですか」

広喜 おっ。「いや、俺は全然」

加容子 「わたしは、初めてだから」

広喜 「俺も……」

二人は顔を見合わせると、笑ってしまう。

広喜 だめだ

加容子 そっちが言い出したんでしょ

広喜 だって、もう高校生じゃないもん、どう見ても

加容子 じゃあ新入社員とかは？ もしくは、同僚？ ナースとか？

広喜 ……縛るって言うのは？

加容子 緊縛……？

広喜 そこまでじゃなくて、ソフトな

加容子 それだったらやる気になる？

広喜 目隠しもしていい？

加容子 ……いいよ

広喜 (手錠と布を取り出す)

加容子 準備良すぎるんだけど

広喜 楽天。ポイントで買った。

加容子 え、いくら。

広喜 千円くらい

加容子 そんなにポイント貯まってた？

広喜 カヨちゃん、やめて生活感出すの

加容子 だって、それ

広喜 大丈夫。領収切ってるから

加容子 そんなの落ちるの？



広喜 資料でもあるから（手錠を掛ける）

加容子 あ、なんか、ドキドキしてきた……

広喜 目瞑って

加容子 怖い。

広喜 大丈夫（目隠しを始める）

加容子 優しくしてね。

広喜 わかってる

加容子 だって、三年ぶりくらいだよね。

広喜 うん

加容子 キスだって結構してないし、なんか、全然夫婦じゃなかったもんね

広喜 見える？

加容子 見えない

広喜 ほんと？

加容子 ほんとだよ

広喜、加容子が本当に見えてないかいろいろしてみる。

加容子は反応しない。

広喜 カヨちゃん

加容子 なに

広喜 かわいい

加容子 恥ずかしい

加容子 キスしたい

広喜 まだだめ

加容子 なんで

広喜 俺の好きなところ教えて。

加容子 急だな

広喜 三〇個言えたらキスしてあげる。

加容子 えー、そうだな。声が好き。ヒロちゃんの声は優しい。顔が好き。困ってる顔。動物のドキュメ

ンタリーとか、泣いちゃうから見ない、ってところも好き。パクチー苦手なところ、かわいい。仕事も好き。

ヒロちゃんの作る本はかっこいい。飾っておきたくなる。ゼリー作ると喜ぶところ。コーヒ―淹れるの

うまいところ。サーファーに憧れてるところ。たまに着るスーツが似合わないところ。似合わないけど、

どきっとする。毎年結婚記念日にアクアパッツァ作ってくれたところ。あれ、おいしい。三年前、最後

にしたとき、出来なかったとき。ごめんってヒロちゃんが言って、わたしが泣いちゃって、ヒロちゃんがわたしのこと大好きだって言いながら泣いたところ。ねえヒロちゃん、やつとだね。もう一回、夫婦に戻るね。

加容子が一人、喋っている間に、広喜は峠と杏南を部屋に招き入れる。

筆談でなにかやりとりをし、杏南はソファへ腰掛け、峠はベッドへ。

広喜はベッド脇から加容子と峠を見つめるように陣取る。

峠は、ベッドの上の加容子にのし掛かり、口づけしようとする。

広喜 カヨちゃん、ごめんね

加容子 ? ……やだ!

加容子は自分に口づけしようとする男の匂いが広喜でないことに気付き、体をよじって逃げる。

加容子 なにこれ、誰? ヒロちゃん、広喜!

杏南 あー、ばれちゃった。

峠 (広喜に) どうします？

広喜 いや、もう、やっちゃってください

加容子 やだ！ なんて、ヒロちゃん

峠 嫌がってるじゃないですか。可哀想に

広喜 いや、でも

峠 こうなっちゃったらダメでしょ。取りますね。

峠は加容子の目隠しを外す。

峠 大丈夫ですか？

加容子 ……どちら様ですか

峠 初めまして。沢島です。

加容子 は、はじめまして。ヒロちゃん。

広喜 はい。

加容子 どういうこと。

広喜 怒ってる？

加容子 どういうこと

広喜 えー、とね

杏南 スワツピング

加容子 は？ え？ 誰？

杏南 沢島の家内でーす

加容子 はい、え？ ヒロちゃん！

広喜 混乱してる

加容子 なにこれ

広喜 えーと、あのね

峠 三枝さん、我々は席を外しましょうか？

加容子 そうしてください

広喜 (遮って) いてください。あの、うまく説明出来そうにないって言うか。

杏南 どっちでもいいけど、早くしてくれない？

峠 杏南。やめなさい。

杏南 はい。

加容子 ……広喜、座って。

広喜 はい。

加容子 説明して。

広喜 はい、えーと、あの、俺、もう立たなくて。

加容子 うん

広喜 正確に言うのと、カヨちゃんじゃ立たなくて

加容子 ！

広喜 ごめん。何度も、チャレンジしたけどだめで、あの日、ダメになっちゃった日、カヨちゃん泣いてるの見て、俺本当に自己嫌悪でさ、あれから何度かしてみようとしたじゃん？ カヨちゃんは子どもが欲しいって言うしさ、カジュアルに言うしさ、それがものすごいプレッシャーで。自分では出来るんだよ。そう言うときは立つんだけど、想像とかでも、カヨちゃんだともう、しゆるしゆるしゆるくって、なんて言うか、俺今ひどいこと言ってるの分かってるけど、萎えちゃうんだ。ごめん。カヨちゃんて出来るように想像力の限界まで使ったけどだめで、気付いてたと思うけど、俺カヨちゃんに触るのもダメになっちゃってて、ここ最近。それでね、本当にどうしようと思ってネットで相談してたんだよ。そしてたらね、奥さんを他の男に抱かせて、それを見て興奮するっていうジャンルがあって「ネットラレ」って言うんだけど、俺「これだ！」って思ってた。他の男に抱かれたカヨちゃんなら抱けるって思ってた、それで、スワッピングってわかる？ あの、パートナー交換。そのマッチングサイトがあってそこに登録して、こう、なった。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

こうかん（おためしサンプル）

---

2016年5月7日 初版発行

著 者 米内山陽子 © 2016年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529

---